第1回・第1期第1回宝塚市協働のまちづくり推進会議　議事録	
開催日時	令和5年（2023年）11月30日（木）18：25～20：40
開催場所	第2庁舎　会議室A・B
次　　第	1　開会 （1）　辞令交付 （2）　市長挨拶 （3）　会長、会長代理の選出 （4）　市からの諮問 2　アイスブレイク 3　議事 （1）　協働のまちづくり促進委員会からの申し送り事項について （2）　本会議の愛称について （3）　今後の議事について 4　その他 5　閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永﨑委員、松村委員、龍見委員、上田委員、前薗委員、岡田委員、橋之爪委員、
開催形態	公開（傍聴人1名）

1　開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則（以下「規則」という）第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は1名であることを報告した。

（1）辞令交付

市長より各委員へ辞令を交付した。

（2）市長挨拶

市長より挨拶を行った。

（3）会長、会長代理の選出

会長の選出方法について、委員より意見があり事務局へ一任することが決まった。事務局により知識経験者である田中委員が会長に選出された。会長代理について、会長により加藤委員が指名され、会長代理に選出された。

（4）市からの諮問

市長より諮問を行った。

2　アイスブレイク

委員１人ずつ自己紹介を行った後、3グループに分かれてアイスブレイク（共通点探し）を行った。

３　議事

（１）　協働のまちづくり促進委員会からの申し送り事項について

事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア　事務局から説明があった中で、付け加えておきたいことがある。P7 の 5(4)だが、皆さん色々と市から事業を請け負っている、例えば青少年育成市民会議、これは、委託事業となっているが、本当に委託であるのかということ。委託契約ガイドラインを作ったときには、お互いが対等の立場で話し合い、最終的には市の方で内容を決めていくとしたわけで、経費の使い方に関して、いわゆる受託側にある程度任されている。ところが、今の青少年育成市民会議の委託事業は、「このお金はこういうのに使ってはダメです。」とかなり縛りがある。だから、本来の委託ではないというのが、実際の話し合いの中で出た。委託契約ガイドラインに沿ってできているかどうか、あるいはこれから検証する中できちんと市の地域や色々な団体に依頼している事業が本当に委託なのかどうか、というところを見直していく必要があるのではないかと思う。そうすると意識もまた少し変わってくるのかなと思うので、そのような意見も出たということを紹介しておく。

イ　（会長）ありがとうございます。他に何か補足でもいいし、質問でもいい。非常に膨大な資料がある。質問でも、「これどうなっているの」ということでも構わない。

ウ　協働の事例の収集・検証について、特に検証という点でいくと、20 のまちづくり協議会の中でどうなのか。それぞれここに居られる皆さんは、関わっている部分もあるかと思うが、どのように検証を行うのか。シートがあるのかどうかわからないが、一定の基準で見ていくことが大事と思う。そういうことは想定して、準備しているのか。

エ　（事務局）今日の議題「(3)今後の議事について」で説明させていただこうと思っていたが、新たな協働の事例がいくつか挙がってきている。この中で実際にそれを実践されている方もいると考えている。まちづくり協議会も協働をしていただいていている大きな柱だが、それ以外にも協働に取り組んでいただいている自治会や NPO 法人、法人格を持っていない市民活動団体など色々ある。今ある協働の事例集に載っている事例もすごく参考になる事例ではあるが、そこにないような新たな要素がある事例、例えば、コロナ禍を受けてできた事例や世代が若い方が入ってくれた事例、コロナ禍を受けてかなりデジタル化の取り組みが進んでいるが、上手くいったところと上手くいっていないところなど色々あると思う。新しい活動をしている方に今ある事例集と似たような新しい事例集を作っても「たくさんあるんだな」という価値はあると思うが、できれば今載っていない事例集を作成して「新しい事例でこういうのがあるんだ」「こういう取り組み方もできるんだな」というようなところをこの新しい協働のま

ちづくり推進会議の皆さんで、取材のご意見もいただきながら新しい事例を集めていけば、ポイントなども必然と見えてくるのではないかと考えている。

（２） 本会議の愛称について

事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア　事務局が今説明の際にたくさん単語で使った「いいね」。「いいやん」というと関西弁になる。よく会議で「いいね」となれば合意という意味。「いいね」がいいかなと思う。日本語になる。

イ　（会長）ありがとうございます。「いいね」というのが出てきた。SNS でも「いいね👍」というのがある。他にあるか。こういうのはたくさん出してもらった方がどう選ぶか皆さんで考えられる。色々と思いついたものを言っていただいて結構。

ウ　愛称をつけることは、会議を親しんでもらう、また委員の中でも会議に親しみをさらに持つことができると思うので大賛成である。今、ア委員から意見が出た「いいね」というのも確かにいいねと思う。ジェスチャーがこれ「👍」。「👍」（ジェスチャー）が使えるというのがすごくいいと思った。今のところ、別のものが思い浮かばない。次回まで引っ張っていいとのことなのでもう少し考えてもいいと思う。

エ　（会長）「いいね👍」というロゴマークも作れるのでは。ロゴマークと併せて考えるということもできる。今すぐ決めるのは難しいかもしれないので、家に帰ってぼーっとした時やお風呂に入った時に考えていただいて、次回の会議に臨んでいただければと思う。

オ　この愛称は今後もずっと使い続けられるものか。

カ　（事務局）正式名称は、条例であり議会で議決されているため簡単に変えることはできないが、愛称はこのメンバーでどんな名前でも使っていただける。ずっと使うつもり。変えることもできるが、変えるとなかなか浸透しないので、少なくとも協働のまちづくり推進会議がある間は愛称も使っていきたいと思う。発行物も愛称を前面に出していきたいと思う。

キ　なぜ質問したのかというと縁卓会議が市民ベースになった時に、(名称は) 市役所のものだと言われ使えなくなってしまったから。

（３） 今後の議事について

事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア　（会長）市民説明会に大体どれくらいの人が来るか想定はあるか。

イ　（事務局）資料「宝塚市協働のまちづくり促進委員会 まとめ」内、「５ 宝塚市協働のまちづくり推進会議への申し送り」の後ろに開催実績を添付している。平成 26 年 11 月 15 日から始まり、その時が 38 名。大体 30 人から 40 人くらいが一番多かったのかなという印象を持っている。会場も公民館のホールでしている所が多かったと思う。それぞれの時にどういうテーマでするのかをこの審議会で審議していただいている。内容をどうするのか、どう進めていくのかと

いうところを皆さんの意見を聞きながら実施させていただいた。実施回数だが、年度によって2回だったり1回だったり様々である。西公民館と東公民館で1回ずつすることも可能。かなりエネルギーがいるので、何度も何度もというよりかは、前回の協働のまちづくり促進委員会では他の議事を進行しながら並行して市民説明会も議論していた状態。各種部会で議論しながら別でチームを作って市民説明会を実施したようなことを聞いている。ただ、かなり事務のボリュームが大きく市職員側だけでなく委員の皆さんにもかなり負担をかけていたというのがある。できれば今回は推進会議本体で内容を検討していき、何をするのかもメンバー全員で意見を聞きながら決めていき、実際にすることが決まって、中身がだいぶ詰まってきて、あとは準備を進めていくだけだなというところまで来たら10人全員で動くと効率的でなかったりすることもあるので、ある程度何人かご協力いただける方にご協力いただいて事務局の方で進めていき、当日は是非皆さんに協力いただきたいと思う。

ウ　（会長）ありがとうございます。皆さん大体イメージはわかったか。過去の実施状況を見るとかなりたくさんの人を集めている説明会もある。そういう場合は、保育園でしているなど場所も影響するのではないか。テーマと場所。やはり来てほしい人の顔が見えるような、そういう企画が望ましいと思う。何かご意見や、こんな風にしたらいいよ、今までしてこられた中でのヒントなどあるか。

エ　ヒントではないが、二つのテーマを取り上げられていて、共通する部分は「担い手づくり」である。その中でいかにこういった会議に担い手を引っ張ってこられるか。そういった事例があれば、協働の事例集に繋がるのではないか。こういった会を催しながら、一方で事例集のネタを探すというやり方ができるのではないか。地域活動においての担い手というのが喫緊の課題だと思うのでそういった観点からいけば、逆にこの会に参加することによって「やっぱり地域活動に関わらないといけないよね」と、特に勤労世代においても関わらないといけないよねということに繋がるような会に持っていけたらいいのでは。今日は、たまたま田辺眞人さんの講義があり、「地域活動に高齢者が関わるのではなく勤労世代が引っ張っていくべきだ。だからあんまり高齢者は顔を出してはいけないのだよ。」というお話をされた。だから、色んな地域の人と話をしていて感じることは、今まで知らなかったことがちょっとしたお手伝いをすることによって「あ、こんなことをしてくれていたんだ」と地域の活動に目覚めるというのか、そういう人たちが一番望むのが組織に入って活動していただければよいが、ちょっとだけお手伝いするという人が結構いるかと思う。そういう人たちにもっと来てもらって、自分たちで例えば次世代の何かをまちづくりにおいてはやっていかないといけない。そのような会に持っていけたら、自ずと事例集もできるのではないかと思う。

オ　（会長）ありがとうございます。最近、PTA でも役員するのは嫌だけど、運動

会とかイベントの時は手伝いたいっていう保護者がいらっしゃる。PTA 役員が、学年に１人になったりしていますよと教えていただいた。ちょっとしたお手伝いやボランティアはしたい、でも役員は嫌だとおっしゃる方も結構多かったりするので、そういう状況であるとかそういう話し合いとかが少しできればいいかなと思うがいかがか。子育て中の方の意見を聞きたい。

カ　正直に言わせてもらうが、「担い手」という言葉が嫌だなと思う。担い手だと、担っている、何かを担われた、という誰かに担われているというような感覚がある。よくこういうまちづくりで主体的に動く人のことをプレイヤーと言うなど自主的に動いているということが大事かなと思うのと、誰かに言われたからするのではないというのが一番いいし、自分も担い手と言われるとすごくやらされている感というか、自分がやりたくないこともやらされそうな感じかなという風にすごく思っていて、色々な資料に担い手と書いてあるが、これは検討していきたいと思っている。例えば、担い手やプレイヤーというがそれって誰のこと？や、どんな状態？ということを今後、ある程度この会議の中で定義することが必要だと思っている。

キ　私も６月までは会社員だったが、働いている人はすごく忙しい。世の中凄く変わってきているし、それについていかないといけない。そこに、「行政的にこれをやってほしい」「まちづくりをやらないといけない」というのが降ってくると、なかなか参加する人が出にくいのではないかと思う。やはり、やって楽しいと思えたり、自分が少し満たされるというその辺りが大事だと思う。自分の将来を考えて「これはぜひ自分のためにやっておくべきだ」など、「自分のために」が伝わらないと、「担い手をやって」みたいなのではなかなか人が来ないと思う。だから、その辺りの意識や人の心理を上手く突くような持っていき方をする必要があるなと思う。

ク　（会長）ありがとうございます。キーワードのようなものが出てきたかなと思う。

ケ　私自身、色々なところに取材に行く中で若手の参画はどこも課題であるなとひしひしと感じているし、私自身、担い手と言われるようなかたちで地域でも活動している。たしかに、担い手と言われるとすごくプレッシャーも感じる。ただでさえすごく人数が少ない中で、本当に私たちだけで担えるのかとも思う。活動というところのグラデーションがあるなと感じていて、緩やかな参加の仕方もあるし、ぐっと入り込んだ参加の仕方もある。グラデーションというのはどんどん許容していくべきと思っている。ライトな参加からどんどん本当に入りたい人は入っていくなど、色々な関わり方というのがこの 10 年で変わってきたのかなと私自身も思っているし、緩やかさがある活動の方が色々な事業に関わっている方も参加しやすいのかなと思う。

コ　社会福祉協議会でも色々と講座を打って出ていて、担い手という言葉を使っていることもあるので、少し反省をした。毎年、介護予防サポーター講座という

ものを開催しているが、いつもそんなにたくさんの人が集まるわけではない。今年はすごく参加者が多かったのは、先ほどキ委員がおっしゃったような自分のためにという打ち出し方、６０歳からの暮らしと健康という打ち出し方をしたので、それが自分ごとになっていった。それが実際に地域活動に繋がっていったかまでは検証できていないが、おっしゃる通りだなと思った。お尋ねしたいのが、実施状況の一覧の中で 283 名来られている講座があるが、なぜこんなに人が来られたのか参考程度に聞きたい。

サ　（事務局）この当時、市制 60 周年の記念のイベントで実施したと聞いている。ここを目指したやり方は正直していない。コツコツとしていかないといけないなというところで、中央公民館のホールなどで実施すると自然と 30～40 名程度が目途になる。283 名を目指すと、正直かなりしんどいし、予算もかなりとらないといけない。

シ　当時、担当をしていたが市制 60 周年記念事業ということでソリオホールで実施した。テーマが「子どものはなしで協働のまちづくりシンポジウム」ということで、講師が大日向 雅美さんという保育の関係では NHK にも出られるなど結構有名な方である。保育士さんの参加がかなり多かったと思う。

ス　確か私の記憶では、宝塚少年少女合唱団や高司のエイサー団体も出ていたと思う。そういった関係者も集まっていたし、講師も有名な方だからたくさんの方が来られた。講演だけでなく子どもたちの発表の場にもなっていたので保護者も来られていた。正直に評価すると、講師が有名な方だから聞きに来た方もおられたと思うが、子どもたちの参加というところで来られた方もいたのではないかと思っている。

セ　（事務局）実施状況一覧の９（平成 30 年 2 月 3 日実施）は、私が平成 29 年度に異動してきて、市民説明会で何をしようかというところで、私が以前保育の部署にいてすごく良い取り組みをしていることを知っていたので来ていただいた。保育園の関係者、保護者も来ていただいてかなり集まってよかった。そういう世代に協働に参画してもらいたいという思いで集めたのですごく覚えている。今日この場で審議が出尽くすものではないと当然思っている。「市民説明会」という名前は変えた方がいいと思っているが、この市民説明会の方向性と協働の事例集を作っていこうという方向性を確認できたら 12 月の議事まで継続審議でも構わないと思っている。その方向ができた段階で市民説明会の内容を全員でまた時間をかけて揉んでいって、どういったかたちで人を集められるのかでもいいが、誰にアプローチしてどういう風に協働に繋がるのかというところも意識して何か取り組みができたらなと思っている。担い手という言葉を正直とても使っているので、何か考えないといけないなと思った。

ソ　（会長）本当に「担い手」ってよく使ってしまう。それでは、良い人がなかなか集まってこない。まちづくりの中では担い手づくりはとても重要なことだろうが、人に聞いていただくには担い手というのは難しいかなという話。今日は、

こういった事項を今後取り組んでいくということで事務局から提案があった。おおよそこの内容で進めて問題ないか。今後事務局で提案した内容で話をしていきたいと思う。

4　その他

（1） 委員より、会議の時間について 90 分にしてほしい旨の提案があった。

5　閉会

以　上